

## 地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査年月日	令和5年10月25日(水)	調査場所	岡山県 倉敷市
委員	委員長 鹿 浜 昭 副委員長 さ の 智恵子 副委員長 小 林 ともよ 委員 工 藤 てつや 委員 いいくら 昭二 委員 へんみ 圭 二		

調査項目	第二次文化振興基本計画について
調査の目的	倉敷市における第二次文化振興基本計画についての取組みを調査する。
調査内容	<p>倉敷市は、平成22年3月に、文化振興施策を総合的に展開するための指針として「倉敷市文化振興基本計画」を定めた。計画策定から10年が経過し、人口減少や、地域コミュニティの衰退等、社会情勢が大きく変化してきている中、新たな視点として、SDGsの推進や文化の持つ力を生かした地方創生への取組など、将来を見据えた施策が求められている。こうした中、令和3年度の本市最上位計画である、まちづくりの指針となる第七次総合計画が策定されることになり、その分野別計画である文化振興基本計画においても総合計画と整合を図り、見直しすることになり本計画が策定された。</p> <p>本計画は、前計画の基本理念である「倉敷。生活に文化が薫るまち」を受け継ぎ、これまで紡がれてきた様々な伝統や文化・芸術などを次世代に向けて保存・継承していくとともに、日本遺産構成文化財（歴史的景観・民芸など）などの、倉敷市ならではの文化資源を活用し、国内外へ積極的に発信し、倉敷市の文化振興施策を進めていくことを目的としている。</p> <p>第二次文化振興基本計画では、前計画の倉敷市文化振興基本計画（第1次）の目指す方向としていた、「文化を知る子が未来をつくる」、「わたしの文化、あなたの文化、みんなの文化」、「くらしき文化と世界をつなぐ」、「だれもが文化を楽しむために」、「世界に輝け、くらしき文化」の5つから、「子どもも大人も文化と暮らすまち」、「文化が息づく活力豊かなまち」、「文化を発信し世界とつながるまち」の3つに統合し、事業を推進していく。日本遺産構成文化財等を活用した取り組みとして、学習まんが制作・副読本掲載、FMラジオでの日本遺産番組放送、郵便局の集配車両をラッピング、特産品開発支援、高校生による日本遺産の魅力発信を支援、ワシントンD.C.での情報発信、日本遺産×Live Art ファッションショー、ミュージカル公演、西日本豪雨からの復興事業等が挙げられる。</p> <p>今後も、計画の実効性を高めていくために、目標値を設定するとともに、「(仮称)倉敷市文化振興基本計画推進委員会」を評価機関と位置付け、継続的な市民アンケート調査により、各事業の実施状況等を把握・評価しながら改善・見直しを行っていく。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	<p>昨今、全国で少子高齢化が進展し、地域社会、コミュニティの衰退が危惧されている中で、倉敷市のような、日本遺産構成文化財等の市の魅力を最大限活用した様々な施策は大いに参考になるものである。足立区においても、文化芸術活動による地域社会への働きかけ等、伝統ある文化を大切に巻き込んでいながら今後の足立区の発展に生かしていきたい。</p>

## 地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査年月日	令和5年10月26日(木)	調査場所	岡山県 岡山市
委員	委員長 鹿 浜 昭 副委員長 さ の 智恵子 副委員長 小 林 ともよ 委員 工 藤 てつや 委員 いいくら 昭二 委員 へんみ 圭 二		

調査項目	岡山芸術創造劇場ハレノワについて
調査の目的	ハレノワは、「魅せる」「集う」「つくる」を軸に、アーティストと市民が出会う場所を提供することを目的とした施設である。本施設における文化芸術の振興、劇場周辺の地域活性化等の取組みの調査・研究を行う。
調査内容	<p>※以下の内容について施設の見学を行った。</p> <p>[施設概要]</p> <p>岡山芸術創造劇場ハレノワは、市民に長年親しまれてきた岡山市民会館と岡山市立市民文化ホールの老朽化に伴い、これに代わる新しい文化芸術施設である。本施設は「魅せる」「集う」「つくる」というコンセプトに沿って、優れた舞台芸術作品の鑑賞機会の提供や、アーティストと市民が出会う体験型ワークショップなどでの交流、演劇・ダンスの作品創りなどを行う。これらによって、「心豊かな市民生活、活力とにぎわいあふれる地域社会の実現」「未来にはばたく子どもたちの育成」「創造力を養い、文化力を育む都市基盤の構築」を目指していく。</p> <p>以前までの、市民会館と市民文化ホールは貸館を中心とした管理運営であったが、ハレノワに代わって、賑わい創出拠点機能を充実させ、施設統合・行政コストの合理化を図った。</p> <p>また、2023年の9月1日にグランドオープンをし、これに先駆けて、2021年の8月に愛称が「ハレノワ」と決定した。この愛称は、全国公募で集まったたくさんの応募作品の中から最終候補を3点に絞り、ウェブ投票で最も投票数を獲得したものである。「非日常」の舞台空間である「ハレ」の場を日常の中で創っていく劇場であり、ハレの輪を岡山の街に広げられる、市民にとって身近な劇場であるように、との想いが込められている。</p> <p>施設内は、大劇場（1753席）をはじめ中劇場（807席）・小劇場（300席）、大練習室（アートサロン）、中・小練習室を備えている。演劇、ダンス、伝統芸能、オペラ、ミュージカル、バレエなどの幅広い公演に対応でき、より大掛かりで新しい舞台演出が可能になった。さらに、稽古場として使える練習室や大道具・小道具・衣装の製作工房もあり、クリエイティブな文化芸術活動を支える設備が充実している。劇場内には情報コーナーや展示ギャラリーを設けるなど、来館した誰もが気軽に利用できるオープンロビーがつくられている。表現や活動の場としてだけでなく、文化芸術を通じて人の交流と出会いが生まれ、街の賑わいを創り出す場を目指していく。</p>

## 地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査年月日	令和5年10月27日(金)	調査場所	高知県 高知市
委員	委員長 鹿 浜 昭 副委員長 さ の 智恵子 副委員長 小 林 ともよ 委員 工 藤 てつや 委員 いいくら 昭二 委員 へんみ 圭 二		

調査項目	オーテピア高知図書館について
調査の目的	オーテピア高知図書館は、「これからの高知を生きる人たちに力と喜びをもたらす図書館」とし、「生涯学習」、「文化振興」、「課題解決」や「学び」をサポートしていくことを目的とした施設である。これらの、本施設における取組の調査・研究を行う。
調査内容	<p>※以下の内容について施設の見学を行った。</p> <p>[施設概要]</p> <p>オーテピア高知図書館は、高知県立図書館・高知市立市民図書館（本館）の老朽化・狭隘化に伴い合築（建設）された。</p> <p>基本理念を「これからの高知を生きる人たちに力と喜びをもたらす図書館」とし、「課題解決」や「学び」をサポートしていく。あわせて県市の異なる機能を相互に補完して共通する部分を共同で行い、直営をもって効率的・効果的に運営する。</p> <p>また、本施設は複合施設となっており、「オーテピア高知図書館」、「オーテピア高知声と点字の図書館」、「高知みらい科学館」が収容されている。</p> <p>オーテピア高知図書館の実績として、2019年度には、個人貸出冊数は157万9737冊、来館者数は102万8441人となり、貸出冊数と来館者数が全国1位となった。今後も、オーテピア高知図書館を拠点として、本の充実はもちろんのこと文化振興や地域の活性化を図っていく。</p>
主な質疑	<p>(問) 平成26年度開館前の年間個人貸出点数は519,892点で、令和4年度には1,103,351点となり倍近い実績更新となっているが、その背景としてどのような取り組みを行ったか。</p> <p>(答) 資料の充実・質が一番の理由。これも、市単独では難しかったため県との共同運営により得られた実績となる。あわせて、オーテピア施設全体としての集客力も1つの要因となっているのではないか。</p> <p>(問) 1人の貸出は何冊までか。</p> <p>(答) 1人20冊までとなっている。</p> <p>(問) 移動図書館のステーション数はどのくらいか。</p> <p>(答) 67か所配備している。</p> <p>(問) バリアフリー図書館の貸出相手とのやり取りの仕方について。</p> <p>(答) 録音図書等の郵送と電話で対応していることもあれば、機材の不具合や操作が分からない等ご要望があれば、直接出向くときもある。</p>
委員長所見・ 区政に活かせる 点等	個人貸出冊数と来館者数の多さを誇るオーテピア高知図書館は、複合施設ということもあり、それぞれの施設機能を十分に発揮しながら相互に連携を図ることで様々な人々の交流を深め、生涯学習や文化の発展に寄与している。その点について現在、複合施設の整備を行っている足立区に大いに参考になるものである。